

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (1階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和6年2月23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaitokenisaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kounyo_u_detail_022_kani=true&ligosvcCd=2290400080-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・居宅が併設している為、連携が取りやすい。
 常勤の施設看護師配置により、お客様の状態変化など細かく観察することができる。
 デイサービス所属の栄養士も在中しているので、食事面でのサポートも強い。
 ユニット連携をとるために、全職員が両ユニットのお客様情報を把握し、勤務ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下は75歳から最高100歳、平均年齢89歳、平均介護度も2.9と、決して軽いとはいえない状況なもの、おやつレクリエーション(コロナ禍では一時中止)や、ドライブレクリエーションを通じて楽しみや有用感を味わい、利用者の壮健さが自慢の事業所です。予め計画をすることにより実践を確かなものとしており、例えば野菜や花の植栽については「緑化計画」を作り、ミニトマトや茄子の収穫を利用者が楽しみの一つとしています。「食」は併設デイサービスと共に力を入れ、例えば「焼き芋食べたい」には嚙下に気遣いつつ、スイートポテトで応えるといった工夫もあって、所長代行が栄養士であることが大いに力と成っています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、人材育成と業務改善に力を入れ実践している。 されて嫌な事はしない、寄り添う介護を軸に多職種連携を大切にしている。	こやまケアを軸としたケアサービスの実現に向け、目標設定と個人面談を位置づけ、面談の場で見直しや次のステップについて話し合っています。また実際に親身な対応があることは議事録やアンケートにおける家族や関係者の言葉で確認されます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で防災訓練の依頼をしている。また、今年も地域女性部の皆様がタオルや花笠など寄贈してくれた。併設デイサービスや居宅支援事業所を通じて情報共有を行い、地域とのつながりを模索している。	婦人会の寄付はコロナ前からコロナ禍、そして後も変わらず定着しています。また運営推進会議には町内会長や民生委員の他にも地域住民が足を運んでくださり、地域とのつながりが前進していることが伝わります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。併設デイサービスを通じて外部ケアマネージャーへの情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の暮らしの様子などが分かるよう資料に写真を掲載している。コロナ禍の中でもできることなど、アドバイスや助言をいただいている。	運営推進会議は年6回の内2回を併設デイサービスと合同開催していることもあって、運送会社の代表や地域防災の顔役的な元・町内会長もメンバーになってくださり、豊かなメンバー構成での隔月開催が叶っています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行い、運営実態について情報共有している。	地域包括支援センターからは運営推進会議に毎回の出席があり、コロナをはじめ難儀なことが続く運営に励ましの言葉も得られています。また現在は抗原検査のキッドは法人提供ですが、半年前までは市の供給があり、助けられていました	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。新入職員については、法人研修、施設オリエンテーション時に理解を深めている。	認知症介護実践者リーダー研修へ管理者が参加中で、その教材から「不適切ケアとならないチームケア」を学習しています。身体拘束廃止委員会では、ベッド柵禁止に向けた環境整備や、スピーチロックなど現場の課題についての協議に取り組んでいます	身体拘束廃止委員会は年4回開催されていますが、定期の形が崩れないよう工夫を図ることを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。また、虐待防止委員会を設置し、事例に基づき協議している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。併設居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。契約担当者が複数名同席し、契約後等の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さず法人へ直接回答をする仕組みとなっている。	法人がアンケートを年1回実施することで忌憚ない意見の把握が担保され、また運営推進会議での家族発言や外部評価のアンケートには事業所の日頃の頑張りを称える感謝の言葉が踊っており、円満な関係が覗えます	今回のアンケートには面会方法の緩和を要望する声が目立ちました。更なる工夫を期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標の振り返りを行い、面談をする場を設けている。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。	リーダー会議と各ユニット会議を毎月実施しています。2種類の会議では意見を上にあげる、上の考えを下におろす循環が適切に機能しています。そのような中では、職員の希望からメンタル等健康状態の維持につながるユニットの配置異動も実現しています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割りや担当などを明確にし、職員の努力や実績を評価し賞与に反映している。 有給休暇や特別休暇の取得など、福利厚生 の充実に努めている。 2023年度特別手当支給あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度もコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。資格取得支援を強化しこやまカレッジの学びは職員の自信に繋がっている。(今年度1名受講)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の部会などに参加し情報交換している。 また、法人内の職員研修では他事業所職員と交流し得た情報を水平展開しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は、特に職員との関係性作りと席など環境設定に重点を置き、安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員2名体制で導入時の相談にのっている。ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体機能維持に努めてもらえるよう、平行棒訓練をご案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。面会の緩和に伴い、ご希望があればご家族様との外出なども実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様一人一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えている。都度、ご家族の意見を取り入れながらケア体制を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的には手紙や電話など、お客様から、ご家族様やご友人に連絡している。併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。	家族に毎月届ける便りには医師の診たても情報提供され、家族が状況を概ね掴めるよう図られています。新聞を読むことが継続されている人が多く、銘柄も「静岡」「伊豆」「読売」「スポーツ」と選択肢を増やし、また食事では「ご飯のお供」を個別対応しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の一部を共同作業していただいている。体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるよう取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。転居先相談員との情報交換する場合もある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望や意向に沿えるよう十分な聞き取りと対応を心掛けている。困難な場合は、アセスメントシートをもとに多職種で協議検討を図っている。また、月に数名夢を叶えることを目標に掲げている。	短期目標における見直し時(半年)、高齢化に伴う食事形態の変化に応じた都度の変更時、ともにアセスメントシートの更新(赤ペン記入)をおこなっています。利用者は職員に直接声をかけて会話を求める人もいて、そんな時は居室でじっくり話を聞いています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、関係者からの聞き取りで得た情報を参考にしている。また、ご本人様との色々な会話の中で得た情報は細かく申し送りして情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態や言動、変化等些細なことでも申し送りに記入して情報共有し把握に努めている。体調管理の為に日々のバイタルチェック表や介護記録、医療連携簿等を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアについて、リーダー会議で協議しユニット会議で展開している。また、些細なことでもご家族様と連絡をとり意向確認をしている。介護記録や申し送り等での情報共有し、多職種連携で介護計画を立てている。	在宅中、家族が熱心に口腔ケアをおこなってきたこともあり、また家族も希望する為、事業所への来訪を以ってケアを継続している例があり、2表の担当者欄に「家族」と入っていて、地域密着型事業所として本流の取組が実現しています	5類移行となったことから、サービス担当者会議に家族の出席があることを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録、看護記録、申し送りに記載している。ケアに実践についてはPDCAサイクルに基づき、ユニット会議で協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	YouTubeなどの動画の活用、一人一人が好きな体操や歌を把握し、楽しめる環境を作っている。デイサービスと連携し、体操やレクリエーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。ドライブ企画等で懐かしい場所、美しい景色を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。訪問看護との連携もあり安心に繋がっている。病院受診対応も、事業所内で体制を整え対応している。	訪問診療医がユニット毎に月1回来所があり、事業所勤務の看護師と当日の勤務者で診療に立ち合っています。また日頃の健康管理にとどまらず、吸引器はユニットに1台ずつ置き、急変時の対応に備えています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の施設看護師配置により、お客様の状態変化を細かく観察することができている。また、訪問看護との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はSWと、情報交換を積極的に行うよう努めている。ご家族様のご意向を伺いながら所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り指針についてご家族様への説明を行っている。今後看取り支援に向かうような方への事前協議を担当者会議も活用し、ご家族様と検討している。	契約時に家族には終末期において事業所ができること、できないことを説明して、合意を得ています。状態に変化があれば医師の意見も仰ぎ、家族とも相談の場を持ち、また契約の訪問看護事業所は24時間オンコールである点も安心材の一つです	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、急変や事故発生後は朝礼で情報発信し、各方面から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。業者立ち合いのもと、新入職者を中心に各種防災関連項目について知識習得に努めてもらっている。3月の防災訓練では、町内会のご支援をいただく防災訓練計画を立てている。	防災訓練には機器業者も立ち会ってもらえ、消火訓練だけでなく、「その時に動かない」といったリスク回避として発電機の稼働訓練もおこない、丁寧に取り組んでいます。また食材備蓄は訓練をチェック機会に位置づけ、期限切れも防いでいます	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさの尊重、こやまケア行動指針に沿って、お客様への関わり方について考え対応している。実践者研修修了職員を中心に、認知症ケアについて勉強会を開催している。ユニット会議でも接遇について協議を重ねている。	こやまケア行動指針に則った言動は概ね浸透していますが、身体拘束拘束廃止委員会では毎回スピーチロックへの是正を求める内容が挙がっています。ロックと言っても「待ってて」といったレベルですが、こういった点にも注視できる事が事業所の良い点です	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめにコミュニケーションを取り思いを伝えやすい関係作り、自己決定できる言葉かけを心がけている。 食事の際、嗜好にも考慮し提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変わる精神状態を把握し、やりたいこととやりたくないことをこまめに確認して希望に沿うようにしている。機能低下にも注意して支援している。介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。また、ヘアカットに併せてネイルなども取り入れでおしゃれの機会を定期的に作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やリクエストメニュー、おやつレクリエーションなどを開催し、食べる楽しみを重視し、嗜好による禁食や、食事形態、盛り付けなどに配慮し提供を行っている。役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。	デイサービス併設なことから厨房職員が揃い、調理師、調理補助、栄養士が配されています。食事は利用者が一番の楽しみとして、「ひな祭り御膳」といった行事食とともに郷土料理の日、イタリアンの日が設けられ、外食気分を味わうことにつながっています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。また、栄養士が採血結果で栄養状態を把握して献立の工夫や、栄養補助食品の導入などアプローチしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてお客様毎のパターンを把握し、ご案内している。	排泄チェック表をつけ、パターン把握による声掛けで失禁を抑えています。「なるべくトイレで」との、現状維持を意識した立ち上がりの機会のほか、手引き歩行でトイレに向かい、戻るときはリビングを1周するといった足腰の鍛錬にも配慮してきます	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、栄養士が食材等に配慮し工夫している。栄養管理体制強化の為、法人内管理栄養士との連携も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携している。	週2回の入浴を目安として、拒否がある場合には日や人を替えて対応しています。水虫の症状には足浴による清潔を推進し、入眠に差しさわりのある人にも足浴をおこなうことで、穏やかな睡眠となるようにとの支援があります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせた支援を行っている。お客様が休息できるよう、フロア内にソファを設置し活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな疾患で服用する薬なのかアセスメントシートや、訪問診療の記録で確認している。薬の変更があったときは内容や変更日、注意点等申し送りで情報共有している。写真や表で正しく確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人ができる家事の一部や活動について把握し、楽しく実施できるように努めている。また、感謝の気持ちを忘れず伝えている。毎日の体操、職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機能維持に努めてもらえるよう、体操や歩行訓練をご案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。面会の緩和に伴い、ご希望があればご家族様との外出なども実施している。	平行棒の設置で機能訓練を続けるとともに散歩は3日に1度と考えていますが、実際は天候や職員数に阻まれ1週間に1回ほどの頻度となっています。またドライブレクリエーションを定着させており、市内をぐるっと周遊し、海を眺めた日もあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物についてはカタログをみて決めていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞いや年賀状など直筆していただいている。また、電話等も施設が橋渡しとなつて、ご家族様やご友人と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。生活共有空間については、お客様毎に使用しやすい場所を双方確認しあい対応している。	加湿器と温度計による湿温管理のほか、タイマーを90分設定として都度の換気を励行して、衛生的な環境づくりを図っています。また家族が生花店を営んでいる利用者には季節の生花が都度届いており、他の利用者の目の保養にもなっています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。また、大画面の壁掛けテレビを設置し好みの番組を視聴していただいている。Wifi等通信環境も充実させて、インターネットを通じて楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。また、床にパズルマットを敷き、万一転倒した際の損害減少にも配慮し、安心して生活できるよう努めている。	車いすを利用するようになり、足腰に不安が生じた場合は、防災環境委員も加わり、関係職員が集まって速やかな協議の下、動線確保に向けた家具の移動をおこない、リスクの軽減に努めています。また必要に応じてパズルマットも導入しています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の危険箇所は防災環境委員会が中心に協議検討している。できることや分かることは、ユニット会議で話し合い日課プログラムなど検討し、PDCAを継続している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (2階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和6年2月23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2290400080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・居宅が併設している為、連携が取りやすい。
 常勤の施設看護師配置により、お客様の状態変化など細かく観察することができる。
 デイサービス所属の栄養士も在中しているので、食事面でのサポートも強い。
 ユニット連携をとるために、全職員が両ユニットのお客様情報を把握し、勤務ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下は75歳から最高100歳、平均年齢89歳、平均介護度も2.9と、決して軽いとはいえない状況なもの、おやつレクリエーション(コロナ禍では一時中止)や、ドライブレクリエーションを通じて楽しみや有用感を味わい、利用者の壮健さが自慢の事業所です。予め計画をすることにより実践を確かなものとしており、例えば野菜や花の植栽については「緑化計画」を作り、ミニトマトや茄子の収穫を利用者が楽しみの一つとしています。「食」は併設デイサービスと共に力を入れ、例えば「焼き芋食べたい」には嚥下に気遣いつつ、スイートポテトで応えるといった工夫もあって、所長代行が栄養士であることが大いに力と成っています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、人材育成と業務改善に力を入れ実践している。 されて嫌な事はしない、寄り添う介護を軸に多職種連携を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で防災訓練の依頼をしている。また、今年も地域女性部の皆様がタオルや花笠など寄贈してくれた。併設デイサービスや居宅支援事業所を通じて情報共有を行い、地域とのつながりを模索している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。併設デイサービスを通じて外部ケアマネージャーへの情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の暮らしのご様子などが分かるよう資料に写真を掲載している。コロナ禍の中でもできることなど、アドバイスや助言をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行い、運営実態について情報共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。新入職者については、法人研修、施設オリエンテーション時に理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。また、虐待防止委員会を設置し、事例に基づき協議している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。併設居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。契約担当者が複数名同席し、契約後等の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さず法人へ直接回答をする仕組みとなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標の振り返りを行い、面談をする場を設けている。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割りや担当などを明確にし、職員の努力や実績を評価し賞与に反映している。 有給休暇や特別休暇の取得など、福利厚生 の充実に努めている。 2023年度特別手当支給あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度もコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。資格取得支援を強化しこやまカレッジの学びは職員の自信に繋がっている。(今年度1名受講)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の部会などに参加し情報交換している。 また、法人内の職員研修では他事業所職員と交流し得た情報を水平展開しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は、特に職員との関係性作りと席など環境設定に重点を置き、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員2名体制で導入時の相談にのっている。ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体機能維持に努めてもらえるよう、平行棒訓練をご案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。面会の緩和に伴い、ご希望があればご家族様との外出なども実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様一人一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えている。都度、ご家族の意見を取り入れながらケア体制を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的到手紙や電話など、お客様から、ご家族様やご友人に連絡している。併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の一部を共同作業していただいている。体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるように取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。転居先相談員との情報交換する場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望や意向に沿えるよう十分な聞き取りと対応を心掛けている。困難な場合は、アセスメントシートをもとに多職種で協議検討を図っている。また、月に数名夢を叶えることを目標に掲げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、関係者からの聞き取りで得た情報を参考している。また、ご本人様との色々な会話の中で得た情報は細かく申し送りして情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態や言動、変化等些細なことでも申し送りに記入して情報共有し把握に努めている。体調管理の為に日々のバイタルチェック表や介護記録、医療連携簿等を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアについて、リーダー会議で協議しユニット会議で展開している。また、些細なことでもご家族様と連絡をとり意向確認をしている。介護記録や申し送り等での情報共有し、多職種連携で介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録、看護記録、申し送りに記載している。ケアに実践についてはPDCAサイクルに基づき、ユニット会議で協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	YouTubeなどの動画の活用、一人一人が好きな体操や歌を把握し、楽しめる環境を作っている。デイサービスと連携し、体操やレクレーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。ドライブ企画等で懐かしい場所、美しい景色を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。訪問看護との連携もあり安心に繋がっている。病院受診対応も、事業所内で体制を整え対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の施設看護師の配置により、お客様の状態変化を細かく観察することができている。また、訪問看護との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はSWと、情報交換を積極的に行うよう努めている。ご家族様のご意向を伺いながら所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り指針についてご家族様への説明を行っている。今後看取り支援に向かうような方への事前協議を担当者会議も活用し、ご家族様と検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、急変や事故発生後は朝礼で情報発信し、各方面から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。業者立ち合いのもと、新入職者を中心に各種防災関連項目について知識習得に努められている。3月の防災訓練では、町内会のご支援をいただく防災訓練計画を立てている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさの尊重、こやまケア行動指針に沿って、お客様への関わり方について考え対応している。実践者研修修了職員中心に、認知症ケアについて勉強会を開催している。ユニット会議でも接遇について協議を重ねている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめにコミュニケーションを取り思いを伝えやすい関係作り、自己決定できる言葉かけを心がけている。 食事の際、嗜好にも考慮し提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変わる精神状態を把握し、やりたいこととやりたくないことをこまめに確認して希望に沿うようにしている。機能低下にも注意して支援している。介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。また、ヘアカットに併せてネイルなども取り入れでおしゃれの機会を定期的に作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やリクエストメニュー、おやつレクリエーションなどを開催し、食べる楽しみを重視し、嗜好による禁食や、食事形態、盛付けなどに配慮し提供を行っている。役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。また、栄養士が採血結果で栄養状態を把握して献立の工夫や、栄養補助食品の導入などアプローチしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてお客様毎のパターンを把握し、ご案内している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、栄養士が食材等に配慮し工夫している。栄養管理体制強化の為、法人内管理栄養士との連携も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせた支援を行っている。お客様が休息できるよう、フロア内にソファを設置し活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな疾患で服用する薬なのかアセスメントシートや、訪問診療の記録で確認している。薬の変更があったときは内容や変更日、注意点等申し送りして情報共有している。写真や表で正しく確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人ができる家事の一部や活動について把握し、楽しく実施できるように努めている。また、感謝の気持ちを忘れず伝えている。毎日の体操、職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機能維持に努めてもらえるよう、体操や歩行訓練をご案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。面会の緩和に伴い、ご希望があればご家族様との外出なども実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物についてはカタログをみて決めていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞いや年賀状など直筆していただいている。また、電話等も施設が橋渡しとなつて、ご家族様やご友人と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。生活共有空間については、お客様毎に使用しやすい場所を双方確認しあい対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。また、大画面の壁掛けテレビを設置し好みの番組を視聴していただいている。Wifi等通信環境も充実させて、インターネットを通じて楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。また、床にパズルマットを敷き、万一転倒した際の損害減少にも配慮し、安心して生活できるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の危険個所は防災環境委員会を中心に協議検討している。できることや分かることは、ユニット会議で話し合い日課プログラムなど検討し、PDCAを継続している。		